はじめに　1

第1部　道路の厚い岩盤——巻き戻された時計の針

第1章　高速道路「どこまで行っても1000円」は問題だらけ　18

高速料金値下げは本当にお得か？／ETCの普及で天下り団体が儲かる／政府に勝手に値下げされて「民営化」会社なのか？

第2章　車が減っても道路はどんどん造られる　28

「9342」の攻防／採算がとれない道路を造る／1時間半で決めた1兆8700億円の道路事業

第3章　幻と消えた「一般財源化」　37

「道路縛り」は変えられず／10年で59兆円を道路に使えば余りは出ない／国交省への陳情のほとんどは道路

第4章　ガソリン国会——自民vs.民主　46

霞が関最強の組織力＝国交省道路局／民主党にも道路族はいる

第5章　「改革ごっこ」の罪――なぜ私は6年前の出来事にこだわるか　53
土建国家への逆回転／改革してないから元に戻せる／ぶっ壊せなかったから自壊した自民党

第2部　道路公団民営化の「七人の侍」

第6章　決戦前夜　60
1　幕が上がった「小泉劇場」
「巨額債務が表面化する」／国交省案は20年後の民営化
2　小泉首相の妥協
首相の顔を立てる古賀道路調査会長／償還期間に踏み込まず
3　道路族・国交省の力
「上下分離」に神経使う道路局／第三者機関の人選が焦点に／道路建設の権限争い

第7章　民営化推進委という名の戦場　75
1　「捨て身の決意」
小泉首相から突然の電話／「猪瀬氏以外なら誰でもいい」／抵抗勢力の包囲網
2　最初の争点＝上場
公開か非公開か／「上場」の二つの意味

3　主戦場＝上下分離か一体か
組織形態の議論を先送り／上下一体では巨額の固定資産税
4　生命線＝償還主義とプール制
6割が赤字路線／破綻を隠す重要な手段

第8章　真夏の決闘　94

1　生命線（永久有料制＝償還主義の廃棄）を巡って
戦況はガラリと変わる／ほとんどの委員は永久有料制／今井委員長と猪瀬委員の誘導
2　主戦場（上下分離か上下一体か）での激論（1）
暫定上下分離／固定資産税と永久有料制の矛盾
3　密室での決着
シャドー・コミッティ?／「新規建設の凍結」の凍結
4　主戦場（上下分離か上下一体か）での激論（2）
川本試算の衝撃／償還期間が長引けば兆円単位の追加負担／再び課税問題／暫定「上下分離」から恒久「上下分離」へ／「道路公団ぽい言葉がちょっと貧相」
5　「場外乱闘」
その1　猪瀬委員のマスコミ批判／その2　藤井総裁更迭要求の腰砕け
6　議論封鎖という「逃げ切り」
「恫喝としか思えない言い方」／今井委員長からの電話

第9章　官僚支配の深い闇　134

1　恐るべき無責任

甘い予測を棚に上げて税金をつぎ込む／「上下分離」の理由(1)――「道路族が大騒ぎになる」／「上下分離」の理由(2)――後出しジャンケン／「上下分離」の理由(3)――それぞれの思惑

2　債務超過問題を直視せず――財務分析の放棄

秘密裏の資産再評価作業／「誤報なんです」

3　道路族の余裕――「決めるのは我々だ」

「推進委はくだらない議論をしている」／突然始まった「秘密会」／本四公団の債務処理／上下分離で決着／建設スキームの意見集約／猪瀬委員の表の顔と裏の顔

第10章　「5人組」のクーデター　164

1　「鉄道屋」対「鉄屋」

「制度設計は国交省がやる」／「5人組」の結成／退路を断った新聞報道／今井委員長の憤り／トイレに立つと後をついていく事務局

2　委員長解任動議

「行政が対応できるような案」／怒鳴り散らす石原行革相

3　再び戦場の背後で――石原・猪瀬調整の失敗

「松田案は小泉を追い込むことになる」／今井委員長のはしごを外した小泉首相／両案添付／猪瀬委員への最後通牒

4　今井委員長最後の日
「政治的にこれでもつのか」／10年後に抜本的な解決を先送り／骨抜きの始まり

第3部　それぞれの「わが闘争」

第11章　王国の崩壊——藤井治芳公団総裁の場合　202

1　ほころび——「幻の財務諸表」と「秘密会議」
道路公団が議事録を書き換え／「幻の財務諸表」／公団のあまりに素早い対応

2　攻防戦——左遷と内部告発
「8人目の委員」の左遷／「正式」な財務諸表では資産超過／「私はだれよりも改革派」／資産を水増しするための手法／責任を取らない官僚の体質

3　四面楚歌
「身内のチェックにすぎない」／誘導尋問による内部調査／「債務超過と報道されれば怒られる」

4　解任
石原vs.藤井の泥仕合／本流ではないが努力ではい上がる／「なぜ道路局の人間が私を責められるのか」／「殺すぞ」／公団解体で国交省の一人勝ち

第12章　「変人」の変心——小泉純一郎首相の場合①　253

1　意見書の「骨抜き工作」

「基本的に尊重」を繰り返すばかり／意見書をことごとく葬り去る国交省と道路族
2　内閣改造
国交省幹部は余裕の笑み／官僚の文章を棒読み
3　「民営化」対「無料化」
償還主義とプール制をなくせ／無料化がダメな理由は収入配分権限の喪失／民主党は「土建国家を変える」と訴えるべきだった
第13章　作家の権力——猪瀬直樹委員の場合　273
1　自分以外はみんなバカ
小泉改革を「格好よく」する／首相補佐官人事／「経営能力抜群」で起用された新公団総裁／「片桐一派の洗脳」
2　「最後の晩餐」
道路建設の仕組み3案／小泉改革ショー「演出」の山場
3　決着
料金収入と上下分離を確保すればあとは枝葉／値切り交渉
4　委員会の空中分解
政府・与党合意／分裂会見
5　道路改革は「作品」か？
民営化する必要があったのか／奔走して獲得した成果／「タラレバ論を話しても始まらない」／権力者の御用達

第14章　「小泉改革」の罪と罰――小泉純一郎首相の場合②

320

1　「建設ありき」の仕組みは変わらなかった

「公団より悪くなる」／道路族は「9342」の完成を手中に

2　主犯は誰だ

改革を装い国民を欺く／「財務省主計局は我々の仲間」／そして誰も責任を取らない